

翔

2010
February
No.202
百万石蝶談会



2009年に石川県で発生したムラサキツバメ

松井 正人

定着北限が本州を北上中のムラサキツバメは、石川県内では2005年と2006年に発生が観察されているが、2007年と2008年は全く観察されていない。2009年は、6月に金沢市内で新鮮な成虫が採集され（澤田、2009）、8月には2005年と2006年に発生が観察されている白山市のマテバジイ（松井、2006、2007）から幼虫が観察された（私信）。

その後、過去の発生地などの公園や街路に植えられたマテバジイの調査が続けられ、10月になって2005年に発生が観察されている羽咋市千里浜（松井、2006）で蛹が採集され、近くの羽咋運動公園では羽化殻が観察された。2009年には、極少数が発生したと思われる。

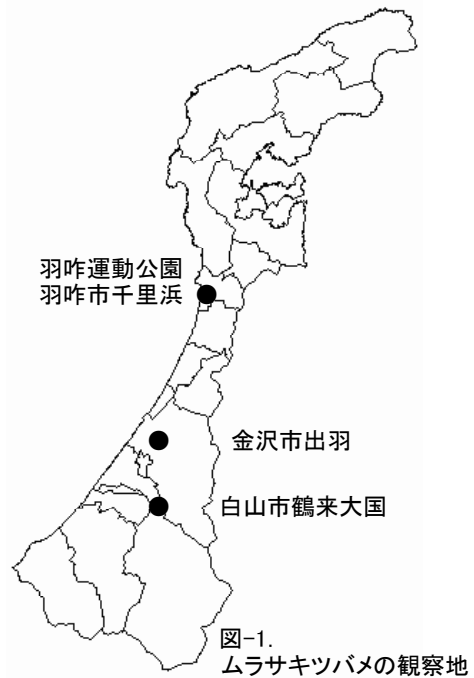


図-2. 街路樹のマテバジイと根際から伸びたヒコバエ。ムラサキツバメの蛹は、食痕がある左のヒコバエの根際から見付かった(千里浜)

2009年 6月23日	石川県金沢市出羽	1 ♂	澤田 博
2009年 8月14日	石川県白山市鶴来大国	3 幼目撃	松田俊郎
2009年10月10日	石川県羽咋市千里浜	2 蛹 1 羽化殻	松井正人
2009年10月11日	石川県羽咋市羽咋運動公園	1 羽化殻	松井正人



図-3. 街路樹のマテバシイの根際から見付かったムラサキツバメの蛹(千里浜)



図-4. 公園のマテバシイの根際から見付かったムラサキツバメの羽化殻(羽咋運動公園)

図-5.
公園のマテバシイ
のヒコバエに残され
たムラサキツバメ
の食痕
(羽咋運動公園)



《 参考文献 》

松井正人 (2006) 石川県で発生したムラサキツバメ. 翔(178):3-9.

松井正人 (2007) 2006年石川県のムラサキツバメ. 翔(184):5-9.

澤田 博 (2009) 石川県金沢市でムラサキツバメを採集. 翔(199):2.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

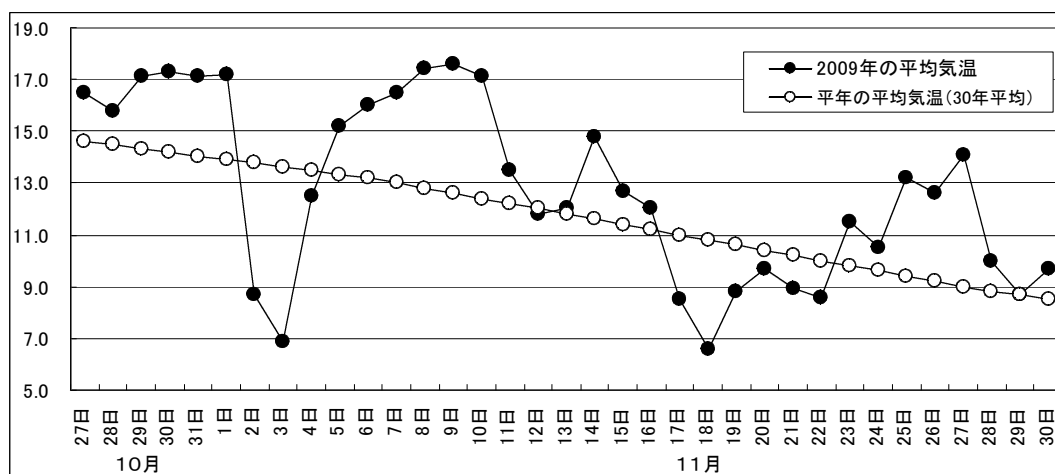
アサギマダラの遅い観察記録

松 井 正 人

石川県内でアサギマダラが観察される時期は、5月上旬から10月中旬にかけてがほとんどで、それ以降は希となるが、2009年は、10月下旬以降に平均気温が平年を上回ることが何度あり、各地でアサギマダラが観察されたので報告する。

報告にあたり、筆者に記録をお寄せいただき報告を委ねられた、平松新一、細沼 宏、小茂尻真凜、松田龍二、南出 洋、中村明男、中田松子、武田正弘、山本 尚の各氏にお礼申し上げる。

2009年10月29日	石川県宝達志水町宝達山頂上(標高630m)	2頭目撃	中田松子
2009年10月31日	石川県宝達志水町宝達山頂上(標高630m)	1♂目撃	松田龍二
2009年10月31日	石川県宝達志水町宝達山頂上(標高630m)	1♂目撃	山本 尚
2009年11月 6日	石川県金沢市医王山柵首(標高700m)	1頭目撃	細沼 宏
2009年11月 7日	石川県加賀市刈安山(標高480m)	1♂1蛹目撃	南出 洋
2009年11月 7日	石川県珠洲市大谷(標高0m)	1♂目撃	小茂尻真凜
2009年11月 8日	石川県白山市瀬戸丸山公園(標高300m)	2頭目撃	中村明男・平松新一
2009年11月25日	石川県白山市瀬戸少年自然の家(標高300m)	1頭目撃	武田正弘



金沢市の2009年の平均気温と平年の平均気温(30年平均)

11月7日の南出 洋氏による蛹の観察によって、石川県で発生した2回目の成虫から3回目の幼虫が育ち蛹に達することが確かめられた。また、成虫が最も遅く観察された11月25日は、これまでの最も遅い観察日だった1977年の11月25日(松井、1978)と並ぶ記録である。



2009年11月7日に刈安山で見つかったアサギマダラの蛹(撮影:南出 洋)

《 参考文献 》

松井正人 (1978) アサギマダラを目撃記録. とっくりばち(41):2.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

石川県志賀町でウラナミアカシジミの幼虫を採集

松 井 正 人

2008年にウラナミアカシジミが初観察された石川県志賀町(浅地、2008)で、ウラナミアカシジミの幼虫を採集したので報告する。

2009年5月1日 石川県羽咋郡志賀町五里峠 6幼(コナラ) 松井正人

ウラナミアカシジミは、津幡町以南の加賀地方に多く、アベマキ(松井、1985)、クヌギ(松井、1985)、コナラ(松井、2000)を食樹としている。浅地(2008)の志賀町田原周辺では、アベマキやクヌギは観察できず、コナラは芽吹いたばかりのようで葉は展開していなかった。そこで、近くの五里峠周辺で調査したところ、アベマキやクヌギは観察できなかったが、展開しているコナラが有り、これから幼虫を採集した。

《参考文献》

浅地哲也(2008)石川県志賀町でウラナミアカシジミを採集. 翔(194):1.

松井正人(1985)ウラナミアカシジミの採幼. 翔(52):3.

松井正人(2000)コナラからウラナミアカシジミの幼虫を発見. 翔(144):2.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

落葉を食べるトゲナナフシを観察

松井正人

ナナフシの仲間の食性は比較的広く、特にトゲナナフシは多食性で何でも食べ、伊豆八丈島では38科59種を食害したと記録されている（岡田、1996）。これらはすべて生きた植物体と思われるが、水面に浮いた落葉を食べていたトゲナナフシを観察したので報告する。



2008年11月15日 石川県金沢市小坂 松井正人撮影

ナナフシの仲間は柔らかい葉を好み、飼育に際しては食草を湿らせると食いつきが良いことが知られているので、水面に浮いた落葉は水分を吸って柔らかい状態になっていたと思われる。この落葉は、石川県立自然史資料館の中野真理子氏に同定していただき、モチノキ科のアオハダであることがわかったので、生葉を与えた時の食いつき状況を調べてみたいと考えている。

同定していただいた中野真理子氏に、厚くお礼申し上げます。

《参考文献》

岡田正哉（1996）ナナフシ類．日本動物大百科(8)昆虫Ⅰ：114-117．平凡社．

《まつい まさと〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

白山市市瀬でムモンアカシジミを観察

松井正人

白山市市瀬でムモンアカシジミを観察したので報告する。

2009年8月22日 石川県白山市市瀬発電所 2頭目撃 松井正人

12時30分頃より約30分間、発生木と思われるミズナラの葉上に静止する個体や、周囲で追尾行動をする個体を何度か観察した。ムモンアカシジミは、金沢市医王山や白山市の大杉谷、百合谷、新岩間温泉、一里野など数カ所で観察されているが、個体数は多くない。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

一流蝶屋の条件（採集家としての）

指田春喜

やや旧聞に属するが、表記の小文が「TSUISO」1014号p.12（2001年1月12日発行）にある。「TSUISO」を購読していない会員も多数いるであろうし、記憶にも残っていないであろう。そこで、この条件12項目を挙げてみる。当の小生も数年前に会費切れで、現在は「TSUISO」に目を通していない。

1. 青い紋のパルナシウスを一種でいいから採る。
2. メガネアゲハを除く真性(正)トリバネを1種 *Ornithoptera* を採る。
3. 中南米なんでもいいからアグリアスを1匹採る。
4. テングアゲハ属オオゴンかテングのどちらかを採る。
5. シボリアゲハ属シボリ、シナ、ブータン、ウンナンどれか一種を採る。
6. 「谷(谿)間にて」のフトオアゲハもしくはシナフトオを採る。
7. アフリカに行ってドルリーかザルモクシスのどちらかを採る。
8. ワシントン条約の一種のどれか採る（ホスピトン、ホメロス、アレキ、チカエ）
9. モルフォチョウでしかもオールブルーのモルフォを採る。
10. ネットアイミドリシジミをどこかで採る。
11. *Sasakia* 属クロオオムラサキ、オオムラサキの2種を3つの国で採っている。
12. ツマベニチョウを（Pelengのデタニ、アンダマン、ニアス、ブル、セラム、ボルネオ）の6ヶ所の中から3産地を採る。

（なるべく忠実に原文のまま記したが、カッコ下線部は当方の加筆）

なお、「TSUISO」であるので“日本の蝶しか採ったことがない”のは、マニアックと切り捨てられている。この点に当会員は、アレルギーを起こすかもしれない、小生の気にするところであるが、ご容赦願いたい。「この12のハードルで6ヶをものにしていない人は日本にはほとんどいない」と（チョウタローは）言い切り、昆虫写真家はものにしていないかもしれないが、標本屋は、世界中に行ってはいるが、自分では採っていないと記しており、6種目をクリアしていたら、一流と呼ぶことにしようではないかと言っている。

この時点から8年以上経ち、現在ではその条件も変わっているであろうし、ハードルも低くなっているかもしれない。でもこの12項目は、いずれもそう簡単ではないと思われるが、当方は、以下の4ヶをクリアしていた。

3. アグリアスは、2002年9月、ペルーのシマでアミドン、クラウディナ（ルーゲンス）を計12頭自分で採っている。
4. テングアゲハは、2000年3月、ラオスのプウ・パンにおいて自分で20頭ほど採り、このとき、小生の採り子がオウゴンテング1♂をネットに入れ、当方が自分で胸を押している（昆虫と自然 35 (7) : 29、2000年参照）。
6. フトオアゲハについては、1987年8月に台湾で採集した（月刊むし (218) : 26、1989年参照）。
9. モルフォチョウも2002年9月のペルーのシマでカシカの1♂を得ている。

つまり当方は、当然「一流」ではなく、「2~3流」というところであり、納得のいくところであった（でも、当然自慢しているのは、ミエミエであります）。

1. パルについては、エバルスマニには青い紋がなかった。
2. アカエリや *Trogonoptera* キシタはだれでも採っているか。
5. シボリアゲハ属の生息地域は入りにくいなあー。
7. アフリカ（エジプト）には一度行ったが、ドルーリーやザルモクシスが飛んでいるところで化学の学会があるはずがない。
8. ワシントン条約の種は、これが制定される前にクリアしておかないと無理である。
10. ネットイミドリシジミのいるところ、採れているポイントにも行ってはいるが、年1化の蝶は、その時期に行かないと話になりません。
11. クロオオムラサキ、オオムラサキの2種については、日本国内のオオムラサキ経験しなく、これまた話になりません。
12. ツマベニチョウは、この6ヶ所ではボルネオのみ。小生、他は未踏である。

残り8つはいずれ劣らぬ難関であるが、実は密かに1のバルナシウスと5のシボリアゲハ属を狙っている。緯度の低いところの高地、つまり、“熱帯の高山”は魅力的である。バルナシウスやシボリアゲハは、サラリーマン教員には無理であるが、当方も定年まで6

年を切った。これからは酒を止め、体力を鍛えて、チャレンジしてみるか！

白状すると、今年（2009年）1月末から、酒は1滴も飲んでいないのである。体重は72kgから65-66 kgになり、ベルトの穴も2つ移動した。これまで血圧がやや高く、健康診断のたびに注意を受けていたが、今は全くの正常値である。γ-GTPもその値が30ほどと、肝機能も30年前に戻った。これまで4000m以上に2度登っている。初めは（1994年8月）ボルネオ島のキナバル山ローズピーク（4100m）であり、3700mの山小屋（ラバン・ラタ）で宿泊の折は、ビールをかなり飲んだが何ともなかった。2度目は2002年9月のペルーでアンデス越えの時に4600mの地点を通過している。4200-4300mの地点では、ギンジャノメや高地性のシロチョウを追いかけ回した。つまり、これまでである程度の高所でも高山病は出ないのであり、パルの棲息域でも大丈夫そうである（過信は命取りになるが）。

と書いてくると、いかにも“蝶採りのために禁酒”したようであるが、本当のところは、1月29日に「急性膵炎」を発症してしまい、医者から酒を止められてしまったのである。新潟県下で倒れてしまい、金沢大学付属病院に3週間入院してしまった。入院そのものが初めての経験であり、大変な思いもしたが、多くの人に助けていただいた。感謝、感謝である。この「急性膵炎」という疾病、知らなかったが、治療法が未だ確立されてなく、国から「特定疾患」（つまり、医療費はタダである）に指定されている。死亡率が高く、「あの時は、安心できる状態でなかった」と後で医者から伝えられたときには、ややビックリ。高山蝶も採りたいが、でもウィスキーが飲みたいよー！！ いつまでガマンできるかなあー

《さしだ はるき 〒920-0931 金沢市兼六元町11-27》

2009年度収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

収 入		支 出	
項 目	金額（円）	項 目	金額（円）
2009年度会費	98,000	会誌作成費	184,800
当該年度以外会費	14,000	例会費	16,000
会誌売上金	37,600	石川県自然史センター会費	3,000
郵送負担金	18,500	郵送費	31,080
寄付金	0	消耗品費	1,168
前年度繰越金	124,202	次年度繰越金	56,254
計	292,302	計	292,302

年会費は2,000円、郵送負担金は500円

会員の動き・しゃばの動き

■ライバル登場で一気に加速

石川県の蛾類目録が2400種を越えた。1998年発行の「石川県の昆虫」には2128種が掲載されているので、272種以上が追加されたことになるが、どうも最近にわかに増えたいらしい。噂に寄れば入場氏の参入が大きいようで、本家富沢氏と競っているとか。

■アサギマダラの再捕獲が好調

2009年秋の飛来数は少なく、マーキングも前年の13%程度の470頭だった。ところが、2000年当時は300頭に1頭だった再捕獲率が60頭に1頭となり、10年間で格段に良くなった。マーキング活動が全国各地で盛んになっていることが良く分かる。

■ペットの性格は主人に似るの？

飼い犬の性格は主人に似ると言われているが、虫も主人に似るらしい。ミツバチ検査で、いくつもの巣箱を調べていると、優しい箱と怖い箱があるらしく、養蜂家の性格そのものらしい。飼ってるクワガタ、あなたに似てるって言われた事ありませんか。

■能登半島のシルビアシジミ

1992年に関野鼻で1♂が記録されていたが、2009年に志賀町で複数個体が記録され飼育もされたいらしい。9月13日に撮影された写真が、日本蝶類研究会発行のフィールドサロン15号の表紙をかざっている。

■「ならがしわ」月一ペース

2009年に休眠から覚めた「ならむしの会」、カラーでいろんな虫の記録が満載の会誌が毎月発行されるなど、順調どころか活発に活動している。

■気象庁が開花予想をやめるらしい

桜の開花は、気象情報会社や日本気象協会も独自の予想を発表し、こちらの方が開花を見通す力が上回っているらしく、2009年の精度は気象庁が最も低かったらしい。ギフチョウの初飛は、気象庁の開花予想から予想されてきたので、古い盟友を失うようできみしくなる。

■ルリウラお前もか

モルフォのように構造色を放つルリウラナミシジミ、35年前の標本が今でも燦然と輝いている。日本のモルフォとあこがれ、西表まで採集に出かけたが、和歌山県で発生したらしい。南方系種の北上が激しいが、西表のモルフォは西表のモルフォであって欲しかったと願うのは、私だけだろうか。

■日本最西端で再捕獲

宝達山でマーキング放蝶されたアサギマダラが、日本最西端の与那国島で再捕獲された。宝達山からの直線距離は1900kmもあり、か弱き体でよくぞ飛んだりとうれしくなる。与那国の100km先には台湾があり、アサギにとってはひとつ飛びで、望みを託して再放蝶された。

■貴重なヤナギがバツサリ

奥能登で採集したコムラサキの幼虫からは、クロコムラしか羽化したことが無いため、I氏やH氏は今期も幼虫採集にいそしんでいる。ところが、おいしそうと目をつけてあったヤナギが見付からない。あちらこちらで工事が行われ、貴重なヤナギがいつの間にか無くなっている。

■消えたミツバチ

農作物の受粉にミツバチの働きは無くてもならないもので、ハウス栽培では特に重要になっている。身近な所で、イチゴのハウスで使った巣箱を次のハウスに移したらミツバチが消えたと言われ、はやり群崩壊症候群かと驚いたが、移したのがトマトのハウスと聞いて安心した。トマトの花は蜜を出さないと知らなかったらしい。

■合格グッズいろいろあれど

コアラの糞までお守りになるご時世、羽化殻だっておかしくない。受験生も、オオゴマダラのように大きく羽ばたいてほしいとの願いを込め、オオゴマダラの羽化殻が入った「羽化する」お守りが石川ふれあい昆虫館から売り出された。仕掛人は、福のかたまりのような福富氏。

■二十歳台が2人参加の新年会

石川むしの会との合同で1月22日に「よし久」で開催。アルコールの入る新年会は年配者が多くなりがちだが、二十歳台2人

の参加もあり、まだまだ気が若い16人が、あれやこれやと今年の抱負を語った。

■ 例 会 の 記 録 ■

12月10日（木）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、能登のシルビア再発見の話題で持ちきりだった。問題のシルビアは、2009年9月13日に志賀町地内の潮が被るような海岸線付近で西口 隆氏が18個体を採集され、写真と共に日蝶研のフィールドサロン15号に報告されている。

その他の話題は、11月のアサギマダラ、季節はずれのギフチョウ、夕日寺のリウウキュウムラサキ、今期クロコムラ情報、県産蛾類目録は2400種を突破、スジアカクマゼミの新産地、トゲナナ冬の献立、キノコムシよりキノコが好き、ボルネオオオナフシは57センチ、などなど。

参加は、井村、富沢、福富、大宮、浅地、細沼、浅野、長田、竹谷、松井の10人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

松井正人：2009年に石川県で発生したムラサキツバメ	1
松井正人：アサギマダラの遅い観察記録	3
松井正人：石川県志賀町でウラナミアカシジミの幼虫を採集	4
松井正人：落葉を食べるトゲナナフシを観察	5
松井正人：白山市市瀬でムモンアカシジミを観察	6
指田春喜：一流蝶屋の条件（採集家としての）	6
編集部：会員の動き・しゃばの動き	9

翔

202号

Tobu 2010年2月10日発行
 百万石蝶談会
 金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727
 郵便振替 00750-8-562
 印刷 小西紙店印刷所

